赤貝ため池ハザードマップ

目につく場所に掲示して下さい

このマップは、赤貝ため池が地震等の原因により決壊した場合の想定される浸水区域・浸水深、氾濫流の到達時間、避難所等を示したものです。

このマップをもとに、日頃から避難所や近くの高台への経路を確認しておくとともに、万が一の際には早めの避難を心がけましょう。

地域に避難情報が伝わるまで

伊 達 市

- ● 避難指示（緊急）
- ● 避難勧告
- ● 避難準備・高齢者等避難開始

●気象情報
●地域情報

消防職員、警察官
自主防災組織

- ●広報車　●現場指示
- ●防災行政無線

●テレビ　●ラジオ
●インターネット

住民のみなさん

いざというときは

- 避難は可能な限り浸水がはじまる前に
- 動きやすい服装で、持ち出し品は最小限に
- 必ず徒歩で！足下に注意して避難
- ため池近隣にお住まいの方は、速やかに高台へ避難
- ため池から離れた場所にお住まいの方は、建物の2階などに避難し、水が引いたら月舘保健福祉センター、月舘認定こども園に避難

凡 例

- 赤貝
- 指定避難所

浸水深

- 0.5m未満の区域
- 0.5m～1.0m未満の区域
- 1.0m～1.5m未満の区域
- 1.5m～2.0m未満の区域
- 2.0m～3.0m未満の区域
- 3.0m以上の区域

緊 急 連 絡 先

名　　称	電 話 番 号
伊達市災害対策本部（伊達市役所）	024−575−1111
ため池施設管理者（伊達市産業部農林整備課）	024−573−5638
消防・緊急	119
伊達地方消防組合消防本部	024−575−1119
警察	110
伊達警察署	024−575−2251

縮　尺　1:5,000

0　250　500 m

N　W　E　S

赤貝ため池ハザードマップの見方・使い方

■ハザードマップ作成の目的

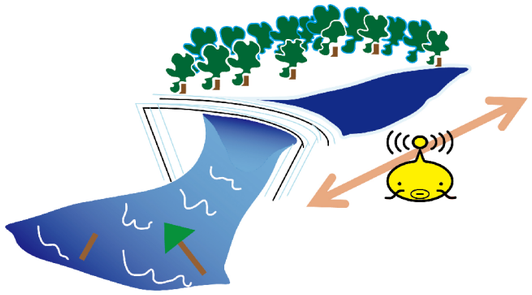
赤貝ため池ハザードマップには、地震等の原因によりため池が決壊した場合に想定される浸水区域・浸水深、氾濫流のシミュレーション結果を記載しました。

このマップをもとに、住民のみなさまに日頃からの避難所等を確認していただき、防災意識の向上につなげてください。

■ハザードマップの作成条件

赤貝ため池が満水の状態で決壊し、貯水が全て下流に流れ出す状況を想定した浸水シミュレーションの結果を記載しました。

実際のため池の水位の状況、気象状況、決壊の状況によってはこのマップの浸水状況と異なる場合もあります。

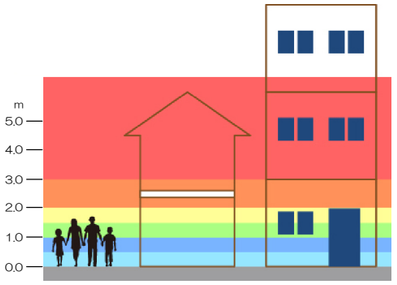


■そうなってからでは遅い！早めの避難

■ハザードマップに載せる情報

①場所ごとの浸水する深さ

場所ごとの浸水する深さを色分けして地図上に表示しました。



②到達時間

ため池の水が到達するまでの時間を表示しました。

③避難場所

避難する場所を地図上に表示しました。なお、一刻も早い避難が必要な事態になったときは、指定された避難場所によらず、近くの高台へ避難してください。

④いざというときの心構え

いざというときの避難に備えて、日常から心がけておく事柄を記載しました。

地図を見るうえでのポイント

- 地図の凡例を参考に、どこにどのような浸水が想定されているか確認しましょう（浸水想定区域では、水だけでなく、土砂や流木、地図上にある様々なものが押し流されてくる可能性があります。）
- 災害の状況によっては、避難所へ向かうことが危険な場合があるので注意しましょう。
- 地図上にある災害シナリオを参考に、災害の発生から避難完了までを考えてみましょう。
- 地図を片手に自分の家から避難所まで歩き、実際の距離感や、災害時に危険そうな箇所（地震時に崩れそうなブロック塀、大雨時に溺れそうな深みのあるところ）や、逃げ込める高台などをあらかじめ確認しておきましょう。